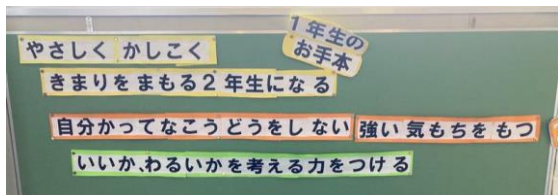




本日の授業参観、懇談会は大変お世話になりました。15日の自由参観もどうぞよろしくお願いいたします

あこがれるという活動の意味

11月は、心かがやけ月間。多くの子もたちが、心を輝かせる具体的な活動に取り組み、学校全体が輝きをまとっていました。



正面入り口には、あいさつ運動をしてくれている2年生のお子さんがいます。

「おはようございま〜す」

「もっと大きい声？それとも大きすぎる？」

「いい感じのあいさつだったね。やったよ」

さらに、学校の中に入ってみると、ここでも2年生のお子さんのあいさつの声が。「僕たちは、廊下を掃除しているんです。ついでに、あいさつ運動もやっています」「みんなのために、きれいな学校にしようって、2年生だから」

なんと素敵なことばでしょう。これまでも、2年生として「1年生のお手本」になろうとがんばる中で大きく成長するとともに、3年生以上のお兄ちゃんお姉ちゃんの姿にあこがれながら成長してきた2年生の姿は、非常に清々しい。そんな2年生が4月当初から目標に掲げた“なりたい自分”は「やさしくかしこくきまりをまもる」「自分かってなこうどうをしない強い気持ちをもつ」「いいかわるいかを考える力をつける」です。そう、1年生にあこがられる2年生になることが、2年生の願いです。2学期も終わりを迎え、ずいぶん達成に近づいたのではないのでしょうか。

翻って、学校不要論が昨今のマスコミをにぎわす場面がみられるようになりました。もちろん、時代の変化とともに、学校も変わらなければならない。ただ、学校には不易の良さ、存在の深い意義があると、私なんかは思っています。その一つが「あこがれの対象が、現に目の前にいる」ということです。

先日から、なかなか自分のことは見るできない、ということを話題にしてきました。あこがれの対象は、その見えない自分を対象化（見えるように）する大切な鏡の役目を果たしている、と言われます。「あんな人になりたい」「こんな振る舞いをしたい」という願いは、今の自分自身を形作るとともに、「なりたい自分までの道」を際立たせてくれる場合もあります。これは、子どもたちだけではなく、大人もそう。あこがれの人の一挙手一投足を見つめ、真似てみて、足らざるを知る、自分の良さを改めて知る、やらねばならない具体を知る。

だから、がんばれるんですね。

夢をもて、とよく言われるのですが、夢はそう簡単には生まれてこない。むしろ、目の前の小さななりたい自分を見つけることが、日々のがんばりの元なのかもしれないあと、私は常々思うわけです。

だから、2年生の目標って、とてもいいですね。

だって、「1年生のお手本」なんですよ。あ〜、がんばれますね。

本校ホームページ「学校生活」も、絶賛更新中です。各学年の見学旅行の様子や6年生修学旅行の様子などを公開しています。ぜひご覧ください。

URL: <http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/sch/e/nirenokies/gakkouseikatu/>

